

白梅学園大学・短期大学図書館における 「情報・メディア利用指導」報告

武田 和彦

1. はじめに

白梅学園大学・短期大学図書館（以下、図書館）では、2010年度より「情報・メディア利用指導」（以下、利用指導）を実施し、本学学生の「情報リテラシー教育」に携わってきた。本稿では、過去の実践報告¹⁾を受け、その後の2012年度からの利用指導を中心に述べていきたい。

2. 図書館利用指導

2-1. 利用指導形式

利用指導は、教員から希望のあったゼミナール単位で実施する。場所は、図書館内、F39学習室、第1・第2コンピュータ室のいずれかで行う。学年や、教員の希望に応じて、30分～最大80分の指導内容を、その都度変更する。2013年度後期より申込書（資料1）を教員に記入してもらうことで、希望する内容を把握し、よりそれに沿った利用指導を実施するよう努めた。

2-2. 利用指導内容

2012年度に学年進行に沿った指導例を作成し、内容の標準化を進めた。概要は、以下の通りである。（※四大の場合）

- 1～2年次：ネットリテラシー。図書館を知る。学習のコツ。

【情報リテラシー + 館内利用指導】

☆ねらい：ネットでの検索情報を鵜呑みにしない。図書館活用法を知る。読書力（文章の読み書き）。

- 3年次：情報検索のコツ、各種データベー

スを使いこなす。

【情報検索】

☆ねらい：卒業論文などに向けて、必要なものを選び出す。学術系データベース（CiNii）による学術雑誌の検索などを活用。

- 4年次：卒業論文

【情報検索 + 卒業論文準備】

☆ねらい：卒業論文執筆に向けた文献収集。論文の組み立て方、ルール（引用記述方法、剽窃をしないなどのマナー）を学ぶ。

図書館での利用指導は希望制のため、一人の学生が4年間すべての内容を受けるとは限らない。だが、4年次の卒業論文など、その学年で必要とされる内容の利用指導が実施できるように設定している。

2-3. 利用指導報告

本節では、利用指導の実施報告をしたい。利用指導の年間実施件数は、2010年度18件、2011年度13件であったが、2012年度34件、2013年度27件と増加している。（表1）

また、2012年度から1年次と3年次の実施件数が伸びており、初年次における基本的な情報検索能力と、卒業論文執筆のための専門的な知識を学ぶことに希望が集中していると推測される。

1年次の基本的な情報検索では、ネットリテラシーを中心にしている。学生はネット環境に慣れていても、情報の正しさを判断する「リテラシー能力」が十分に身につけているとは限らない。ネットは匿名性が高いため、作成・責任者が見えづ

らい。学生には、ネットの情報を鵜呑みにせず、情報が正しいか精査する習慣を学んでもらいたい。1年次での基礎的な情報検索をすることで、3～4年次になった時の専門文献の検索が円滑にいくだろうと考えている。

3年次の指導については、卒業論文の準備段階としての文献検索を中心にしている。卒業論文では、学術雑誌などの専門的な論文を使用することが多いためである。また、各学生の個別テーマに沿った検索演習の時間も設け、指導している。資料2は、3年次の卒業論文に向けた図書・雑誌論文検索の内容である。(当日スライドで見せ、説明している。)

一方で、この4年間、保育科、大学院の利用指導実施が非常に少ない。今後は、短期大学、大学院にとっても必要とされる利用指導の在り方を検討する必要があるだろう。

3. おわりに

本稿では、白梅学園大学・短期大学図書館において実践している「情報・メディア利用指導」について振り返ってきた。最後に、利用指導の今後のあり方や検討課題を示し、結びとしたい。

中央教育審議会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』(2012)²⁾の中で、大学教育の今後のあり方について指摘されている。答申の中で、大学は、「主体的に考え、学び続ける力をもつ人材」の育成が期待され、学生には、①認知的能力、②倫理的・社会的能力、③創造力・構想力、④教養・知識・経験の能力が求められている。つまり、大学教育では、物事に対し能動的に取り組む学生を育てることが重要になってくるが、情報を主体的に使いこなす「情報リテラシー教育」の必要性もますます高まってきていることも示している。

本学でも「情報リテラシー教育」が重要になってくるだろうが、学生が学ぶ機会はまだまだ少ない。図書館での利用指導はあくまで情報検索が主であるが、教員からの協力、要望もあり、ネット

リテラシー、卒業論文の書き方などの項目を追加し、年々内容を充実させている。学生が図書館で学んだことを、各自のゼミナールや卒業論文でより活かせるよう、図書館での利用指導をさらに良いものにしていきたい。

一方で、現在の利用指導は、図書館員がもっぱら検索方法を説明するだけで、学生の主体性を活かす時間になっているとは必ずしも言えない。具体的なテーマを設定し、学生自らが調査する演習形式の指導が、今後はより求められるだろう。

また、教員や学生からの「参考になった」、「分かりやすかった」などの声は聞こえているが、利用指導の理解度、満足度などを知るためのアンケート調査を実施していないのは課題である。実態調査をすることで、内容の改善に努めていきたい。

図書館の利用指導は試行錯誤しながら、4年が経過した。課題は山積であるが、図書館員の専門スキル向上に励み、利用指導の更なる充実化を図っていきたい。

表1. 情報・メディア利用指導 年間実施件数

2014.2.10 図書館

情報・メディア利用指導(図書館利用案内含む) 年間実施件数

2013年度

	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	保育科		大学院(修士課程)	計
1年	2	4	4	0	/	1	11
2年	5	0	0	0		* 大学院(修士課程)は便宜上、1年次にカウント	5
3年	6	0 (1)*	2 (1)*				8 (2)*
4年	2	0	1				3
計	15	4	7	0		1	27

*ゼミ内に3学科在籍。

2012年度

	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	保育科		大学院(修士課程)	計
1年	6	3	4	0	/	1	14
2年	6	0	0	0		* 大学院(修士課程)は便宜上、1年次にカウント	6
3年	8	2	0				10
4年	4	0					4
計	24	5	4	0		1	34

2011年度

	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	保育科		大学院(修士課程)	計
1年	0	4	2	1	/	1	8
2年	2	0	0	0		* 大学院(修士課程)は便宜上、1年次にカウント	2
3年	2	0					2
4年	1						1
計	5	4	2	1		1	13

2010年度

	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	保育科	福祉援助学科	大学院(修士課程)	計
1年	1	4	0	0		0	5
2年	5	0		0	1	* 大学院(修士課程)は便宜上、1年次にカウント	6
3年	7						7
4年	0						0
計	13	4	0	0	1	0	18

大学・短期大学図書館 情報・メディア利用指導 申込書

※太枠内を記入してください。

担当教員名		学科名	子ども 保育	発達臨床 大学院	家族・地域支援 その他()
授業科目名	(曜日 限)	授業名:	学年:		
希望日時	第1希望	月 日 ()	限	希望場所(※第1/第2コンピュータ室の教室指定はできません)	
	第2希望	月 日 ()	限	図書館(最大8名)	F39学習室(最大20名) 第1/第2コンピュータ室(最大40名)
時間	30分	60分	80分	その他(分)	
参加人数	名				
内容	<p>基本内容は約60分です。学年に合わせたものや、特定のテーマ性をもたせた内容も可能です。</p> <p>【基本内容】</p> <p><input type="checkbox"/> 図書館ツアー(サービス概要、館内案内)</p> <p><input type="checkbox"/> 本の探し方(白梅図書館OPAC)</p> <p><input type="checkbox"/> 外部情報源の紹介(新聞記事データベースなど)</p> <p>【オプション】</p> <p><input type="checkbox"/> 情報リテラシー(ネットリテラシー中心)</p> <p><input type="checkbox"/> 学術情報データベース検索(CiNii、医中誌など)</p> <p>(データベース名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 卒業論文(書き方など)</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>				
要望	<p>※受講するゼミ生の興味のあるテーマが分かる場合はご記入下さい。</p>				

授業時間 第1時限 09:00～10:30 第2時限 10:40～12:10 第3時限 13:00～14:30
第4時限 14:40～16:10 第5時限 16:20～17:50

※原則、利用指導は1授業につき1回とさせていただきますので、予めご了承ください。

※日程調整後にご連絡いたしますが、ご希望に沿えない場合もあります。

受付	年 月 日 ()	受付者:
講習担当者		
備考		


資料2. 利用指導テーマ: 図書・雑誌論文の検索

**利用指導テーマ:
図書・雑誌論文の検索**

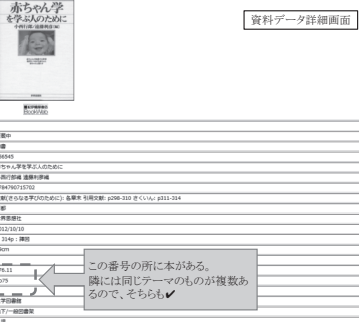
白梅学園大学図書館

目標

- 図書、雑誌検索のコツを覚える。
- 自分のテーマに関する本、論文を5冊以上見つける。




検索をマスター ～図書編～

検索キーワード入力のコツ

- ①キーワードは正確に入力。
例: 子ども/子供/こども(=コドモ)/児童
- ②単語ごとに細かく入力。
例: ×日本の保育
○日本_保育 (←半角スペースを入れる)
- ③別のキーワードで検索し直す。
例: 待機児童
新しい言葉なので、ヒットしづらい⇒「保育所__問題」で検索



検索サイトで本を増やそう!

白梅図書館HP→外部情報源

国会図書館「リサーチナビ」
調べ方・キーワードを増やす **リサーチナビ**
国立国会図書館
<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

「WebcatPLUS」
全国の本を自由に探す **Webcat Plus**
検索・閲覧できる本の世界
<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

検索をマスター ～雑誌編～

①図書

その研究の中で、ある程度評価の定まったもの。

蔵書検索

②雑誌論文

最新の研究動向チェック。図書でヒット数が少なかった時に便利。

CiNii
NII 論文情報ナビゲータ

CiNiiを使ってみよう!



雑誌論文はダウンロードで入手できる！

白梅図書館HP→外部情報源

CiNii Articles <http://ci.nii.ac.jp/>



<全文ダウンロード可>

[CiNii PDF オープンアクセス]

[CiNii 外部リンク]

[機関リポジトリ] (外部サイトよりDL)

[J-Stage]

[CiNii PDF 定額アクセス可能] (学内端末のみDL可)

学外端末もDL可
(一部不可の場合あり)

新聞記事検索 → 国、行政の最新動向を知る

9

検索練習

○それぞれのレポートテーマをまとめる。
その上で必要な資料を、図書館のサイトを使って探したい。
検索した際のキーワード、
著者名、タイトルなどを記入すること。



10

キーワードを書き出そう！

レポートテーマ

「
」

キーワード(一番中心となるキーワードには線を引く。)

- ・
- ・
- ・

11

<検索キーワード、分野>

(
)

<見つかった図書の著者名/タイトル/分類記号>

- ・
- ・
- ・

12

<検索キーワード、分野>

(
)

<見つかった雑誌論文のタイトル/雑誌名/巻号>

- ・
- ・
- ・

13

付録: 図書、雑誌論文の読み方

文献のタイトル、目次、序論や結論、解説など、
重要な部分に目を通し、本の概要を把握する。

<注目する点>

- ・キーワード(ページ後ろの索引、参考文献リストも参考に。)
- ・重要単語、キーワードについての定義
- ・その問題の背景、原因、影響は？
- ・これまで行われた議論や研究は？？

14

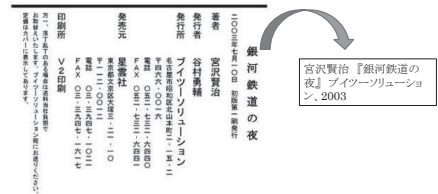
付録: 図書、雑誌論文のまとめ方

- 内容の要点を、数行でノートやファイルにまとめておく。
または印刷し、ファイルする。
- 文章の重要性についてもチェックしておくこと。
「必読」、「部分的に必要」、「データが使える」...
- 参考文献リストにあった本をさらに読んでみる。

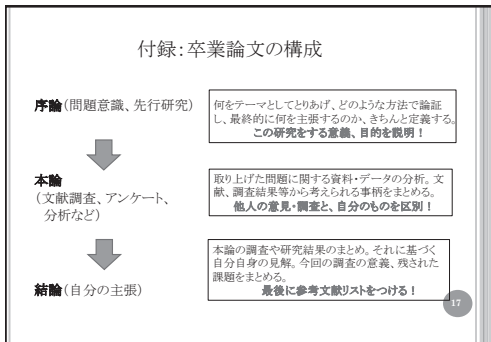
「読んだ本のリストを作成、もしくは本の奥付をコピーし、
1つのファイルで管理すると便利！！」

15

奥付は、本の情報がまとまっている！



16



引用した文章は、自分の書いた文章と区別をする。

<引用ルール>

1. 引用したい部分を「」で囲む、もしくは行をあける。
2. 「」の中には、引用元の記述のまま引用
引用文章にある「」は、『』に変える。省略する場合は、(中略)を間に入れる。
3. 引用した文の前後に、著者名・出版年、ページ情報を入れる
4. 文末表現は引用の意図によって使い分ける
～と述べている、～と主張している、～としている、～と説明している
5. 参考文献リストを最後につける

付録：レポート、論文での参考文献リストの書き方例

●著書：著者(編者名)、(翻訳者)『書名』出版社、出版年(シリーズ名)
無藤隆・岡本祐子(他)編『よくなる発達心理学 第2版』ミネルヴァ書房、2009
クライド・クラックホーン、外山広比古・金丸由雄訳『文化人類学の世界』講談社、1971(講談社現代新書255)

●雑誌論文：著者(無の場合は省略)「論文名」『雑誌名』巻(号)、出版年、該当ページ
宮口 和義・出村 慎一「幼児の敏捷性の発達に対するレレゲーム及び運動遊びの影響」『発達発達研究』第55巻1号、2012、p.23
※巻(号)のこのは、55(1)はなどと省略して書く場合もある。2p以上の場合は「pp.〇-〇」とする。

●新聞記事：著者名(無の場合は省略)、「記事名」『新聞紙名』発行日時、x面(yページ)
「生活保護受給者、6月も最多更新211万5千人」『朝日新聞』2012年9月26日、夕刊、東京本社版、2面

●ウェブサイト：著者名(無の場合は省略)、「文書名」URL(アクセスした年月日)
「ひきこもり支援者総本」(http://www3.cmu.go.jp/youth/kenkyu/hikikomori/honbook/ku_aki.pdf.html) 閲覧日 2012年10月2日

※1 出版年は裏面に表記されたもの、文献リストには、朝の年ではなく、版の年を書くこと。
※2 出版年が著者の後に来る方法もある。
例：無藤隆・岡本祐子(他)編(2009)『よくなる発達心理学』ミネルヴァ書房
研究分野などによってリストの書き方が違うので指導教員に確認すること!!!

参考文献

- 石井一成 『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社、2011
- 石黒圭 『論文・レポートの基本 この1冊できちんと書ける!』日本実業出版社、2012
- 白井利明・高橋一郎 『よくなる卒論の書き方』(やわらかアカデミアム・「わかる」シリーズ) ミネルヴァ書房、2008
- 滝川好夫 『学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル』税務経理協会、2011

引用文献・注

- 1) 森なを子「白梅学園大学・短期大学図書館における情報リテラシー教育の実践」『白梅学園大学・短期大学情報教育研究』No.15、2012、p12-25
- 2) 中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』(答申) 2012.8.28.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
上記資料の他、以下も参考にした。
・中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』(答申) 2008.12.24.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
・科学技術・学術審議会『大学図書館の整備について』(審議のまとめ) 2010.12.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
・永田治樹ほか『今後の「大学像」の在り方に

関する調査研究(図書館)報告書：教育と情報の基盤としての図書館』国立大学法人筑波大学、2007.3
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf>
(たけだ かずひこ 図書館課)